

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2292100365		
法人名	有限会社 ベネフィットサービス		
事業所名	グループホーム心音		
所在地	静岡県富士宮市北町15番7号		
自己評価作成日	平成30年2月1日	評価結果市町村受理日	平成31年3月25日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「その人らしさを実現し笑顔を生み出す」を法人共通理念としており、ご利用者一人一人に寄り添い傾聴の姿勢を忘れず、実践するよう指導している。その人の病前思い描いていた理想の老後に対してどこまで実現できるかを考えています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;jigyosvoCd=2292100365-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;jigyosvoCd=2292100365-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月24日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

福祉用具貸与の事業所からスタートし、代表者が介護支援専門員の資格を取得した平成18年に居宅介護支援事業所を開設、その後通所介護と増やす中、「利用者の最期まで伴走したい」という思いが募り、看護小規模多機能型居宅介護を併設するグループホームの認可を受けるに至っています。子どもを連れての就労を容認していて、日には数名ですが全体では10名前後の子どもたちが事業所に入入りしています。また食器洗いをテキパキとおこなったり、重度の利用者を心配して世話焼きをしたり、「第二の職員」ともいうべき利用者が活躍していて、創成期の頃のグループホームの様子が残る事業所です。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしさを実現し笑顔を生み出す」を共通理念とし、ご利用者一人一人に寄り添い傾聴の姿勢を忘れず、実践している。	採用時のオリエンテーションでは丁寧に説明してはいますが、開設時からこちら慌ただしく、皆で再確認する機会はなく、掲示をはじめ浸透への工夫が立ち遅れていて、課題の一つとしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の特色としてお祭り区である事から、定期的に近くの施設にて区との交流に参加している。また季節の行事(どんど焼き等)と一緒に参加する事で地域との交流を図る。	区からは「お祭りには参加してね」と声をかけてもらえ、すぐ近くからは書道のボランティアが訪れてもいます。まだ近隣の学校等に挨拶に行けていませんが、子連れ就労を通じて子どもの賑わいは充実しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設したばかりで今後の課題としている。地域においては認知症や介護保険法令についての相談場所として確立していく為、定期的に体調相談所等の開設を行っていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の有識者や行政職員等に参加を依頼し行っている。また、近隣の介護施設の職員も交え、意見をいただいている。	運営推進会議には行政・地域からの出席は得られるも未だ家族の参加は見られません。介護度をはじめ運営状況とともに誤薬や転倒事故等詳らかに報告して、透明性を図っていることは議事録で確認できます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議はもちろん、事業所での相談等を行い、行政と協力関係を構築している。	開所時には、富士宮市から運営推進会議の開催月の指導等を得ており、新設事業所であるのに初年度から年6回開催が叶う予定です。小規模ホーム部会や集団指導に出向き、連携に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を定期的に関催し、やむを得ず、身体拘束が必要なご利用者については慎重に議論を行い身体拘束については真摯に受け止めるよう取り組んでいる。	本年の法改正に基づき「身体拘束・虐待防止委員会」を設置し、年4回の会議運営もあと1回を残すのみですが、研修会開催が未実施のため急ぎ取組む予定です。フロアの雰囲気は穏やかで、丁寧な対応のできる職員であることを視認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止委員会を定期的に関催し、やむを得ず、身体拘束が必要なご利用者については慎重に議論を行い身体拘束については真摯に受け止めるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人が担当しているご利用者が居るため、成年後見人制度について必要な知識を管理者がまとめて職員に随時周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明者が契約をしようとしている者に対し、納得ができる説明ができるよう、ロールプレイング等を通じて説明の方法等周知している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者及びそのご家族の要望や改善点等は、定期的な事業所会議において周知、改善していけるよう努めている。	毎月、写真入りの「ご利用報告書」で状況を届け、毎日訪問くださる家族もいて、面会では職員が会話を持つよう心がけています。例えば嚙下状態を同じ目線で協議できたことから改善につなげた例もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	都度提案を受け入れ反映させている。	階下では看護師と介護職が混在していることから、フラットな職場づくりを意識して「パートタイマー職と同じ目線で～」を代表者が自らに課しています。その為、ケアカンファレンスでは率直な意見も出ています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できるだけ個々と話し合う機会を作るようにしています。それぞれの話を聞きながら職場環境の向上に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修の案内を出して、その際の時間を勤務時間に含めることができるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を作ることはできていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ラポールの確保を第一に考え、ファーストインテークより常に傾聴の姿勢を怠らず言葉に隠れている見えない不安等も聞き取れるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階や定期的に本人とは離れた所で個別に話し、本人の前では言えない事を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階において自事業所以外の支援が必要との判断となれば他事業所へ早急に連絡し		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士の関係は自然とできるようにしています。問題が生じなければそれぞれの居室の行き来なども制限しておりません。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつきてもいいような関係性を作っております。毎日来てくれているご家族もいらっしゃいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人がグループホームに来れば対応するのですが、今までの馴染みの人との関係性を継続できるように会いに行くなどの支援はできておりません。	自宅との認識のため面会時間の制限も設けず、友人、知人も訪れています。家族が本人の入所で少し余裕ができたことで以前から通っていたお琴教室を再開して、月2回出かける楽しみを持つ利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルもできるだけつなげて利用者同士の会話が行われるよう配慮しております。もちろん職員による会話の仲立ちは行われず。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した利用者様との交流は今のところありません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いはどうだったのか。今の意向はわからなくても想像して支援するよう努めている。	「お風呂入らない」「ならいいよ」ではなく「本人の隠された真意を拾うことが大切」、と常々代表者から説いています。湯船や深夜等1対1となれる場面では、愚痴や不満が零れ、発見があれば記録に残しています。	介護計画書に本人の言葉が載るような取り組みがあると、なお良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初にこれまでの暮らしの経緯は把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方については試行錯誤しながらその方に合ったスタイルを提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、最適な介護計画がなされるよう配慮している。	通常の段取りで介護計画書の作成はできているものの、現場の取り組みがプランを素通りしてしまい解決していくような流れとなっていて、現場サイドで臨機応変に実践してしまっていることは、是正として認識されています。	入所1ヶ月を仮とし、改めて本作成すること等必要と思われる事柄に組み込み、介護計画書に個別性が高まることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入したことは、個々に確認を行い、重要なことは申し送りノートに記入して連携を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス以外のサービスの多機能化については今はまだ行われていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだ一年目だが、地域の方たちとは少しずつ運営推進会議などを通じて交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医の富士在宅診療所の協力もあり、その時々に応じた対応ができています。	在宅医療専門医である協力医が月2回訪問診療くださり、24時間オンコールで安心体制なこともあって9名全員が従来のかかりつけ医から変更しています。また突発的な異変には事業所で受診支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1Fと2Fと近いので適宜看護職に相談しながら支援を提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院している病院などには適宜情報を渡したり、退院カンファレンスに出席するなどされている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が心配される場合には主治医と家族と施設の3者による話し合う機会が持たれている。	開所から1年足らずで看取りとなりましたが、階下にはパートタイマー職を含めると5、6名の看護師が登録されているため、困ることなく無事お見送りでき、家族に囲まれて旅立られています。看護師のエンゼルケア、個々の祈りのカンファもおこなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練はまだ行われていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制はまだこれからである。	年間契約の防災業者が定期点検を実施するも、年2回おこなうはずの法定訓練は遅れていて、「まずは年度内に1回実施を」と準備を進めています。また大停電のことを耳にして、太陽光による逐電を1月から始めています。	防災訓練2回(他、身体拘束、適正化に係る会議運営4回、運営推進会議6回等も含み)と入った年間行事計画を作成することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについてはまだ問題点があるが、適宜研修などが行われている。	毎月のカンファレンスでは、数名で集まってグループワークのような形式で気をつけるべきことを相互に振り返っています。「～ちゃん」は未だ払拭できていないため、都度代表者から注意喚起しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の声に基づいて暮らしてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大事にし、その人らしい生活が送られるよう既存の概念にとらわれない支援が行われている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設の服などではなく自分の着ていた私服にて過ごされている。どの服をきるのかも、決められる方は本人が決められている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事はとっていない。出来る方については一緒に片づけなどをしてくれる。	業者から届くパック入りの献立を湯煎する方法を取り、貸与の大型スチーマーを使って温かい状態で一斉に並べることができています。ゼリーやミキサー食も業者のものです。餃子やお好み焼きをする日もあります。	足台を使う利用者もいますが、一方でテーブルと椅子の高さがちがう人もいます。一度、姿勢や使用の椅子についてチェックをかけることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に応じた食事量や食事形態など配慮されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回必ず口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にトイレで行える方はトイレでの支援をしている。おむつの方も清潔には配慮されている。	排泄チェック表をつけリズムを掴んではいるものの、実際は夜間も定時誘導です。フロアでは重度の人の便秘を心配する利用者に「あんまり気にしないでいいんだよ」と優しく諭す職員の姿が在りました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中出来るだけ活動的に過ごしてもらう。水分摂取の励行などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日はほぼこちらでコントロールしてしまっている。	左右の麻痺に対応できる可動式浴槽で、手すりも十分分配されています。週2、3日を目安として、介助が必要なくても全員が湯に浸かる喜びを味わうことができます。今後は変わり湯もやってみたいとしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく寝られるようそれぞれの事情に合わせた就寝ケアを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援については、看護師と居宅療養管理指導による支援が行われている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの楽しみごとが定期的に行われるようにしていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望によって戸外にでかけられるように努めていきたい。今現在は寒い時期で希望も少ないが過ごしやすい季節には外に散歩に出かけられている。	春秋は富士宮北高校を目指しての散歩が日々あり、スタート年で諸所難儀もあるにも関わらず、富士川楽座、白糸の滝、ばら園などドライブ外出も実施しています。また1名携帯電話を持つ人は家族に「～欲しい」と直接伝え、買い物外出を随時実現しています。	1ヶ月に1度程度は100円均一への買い物や時節ドライブに出かけられるように図ること期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的に本人管理されていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今現在は電話や手紙のやり取りを行っている利用者はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間については利用者にとって不快にならないよう清潔に努めているが、季節感については工作物で季節の掲示などしている。	様々な種別サービスに勤務していた職員が多い為、壁画クラフトも凝っていてベテランの力が滲んでいます。またテーブルは六角テーブルでいろんな形になり多目的に使えるものを導入しています(製作者は若年性認知症の市内在住者)。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中の良い利用者がそれぞれ話ができるよう席の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については使い慣れたものをもってきていただけるよう案内をしているが、案外新しいものを持って来る家族が多い。	エアコン、洗面所、ベッド、カーテンが予め備わっていますので、持ち込みの大きいものはチェスト程度です。現在女性ばかりのためか、どの居室も清潔でやんわりとした空気が流れ、お互いの居室の往来も盛んです。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全については配慮しており見守りのしやすい形となって居る。		